

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

Here you are の類似表現に関する一考察

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日木, くるみ メールアドレス: 所属: 関西外国語大学 |
| URL | https://doi.org/10.18956/00006309 |

Here you are の類似表現に関する一考察

日 木 くるみ

1. はじめに

一般に何かを渡す時の表現として辞書などに記載されている *Here you are* は、一見簡単に見えるが、映画などで *Here you go*, *Here it is*, *Here they are* などが似たような状況で使われていることを知ると、その4表現の違いが疑問になってくる。しかしそれらの類似表現の違いを知ろうとすると、明確な答えを得るのは実は容易なことではない。例えば『ウイズダム英和辞典』を見ると、相手に物を差し出すときに *Here you are*, *Here you go*, *Here it is*, *Here they are* のどれでも使えると考えられるような辞書の記述になっており、4表現の使い分けに関する情報が得られるとは言い難い。そこで本研究では、上記の4表現がそれぞれどのような状況で使用されるかを分析し、使われ方に違いがあるのか、あるとしたらどのような違いなのかを考察してみたい。

2. 辞書と文法書の記述

2.1. *Here you are* について

Here you are で最も多い説明は、「人に物を差し出すとき、手渡すときに使う表現」などという記述だった (『ウイズダム英和辞典』、*Longman Advanced American Dictionary*, *Macmillan English Dictionary*, 『現代英語文法』、『ロイヤル英文法』、*A Dictionary of English and American Usage*、『英語表現辞典』、『英語表現辞典 第二版』、『グラントコンサイス英和辞典』、『LEXIS 英和辞典』)。

『オックスフォード実例現代英語用法辞典 (Second Edition)』は、上記の辞書等とは多少ニュアンスの違う書き方をしている。英語には物を手渡すときに自動的に言う決まった表現がないとし、その上で「*Here you are* は特にある物を手渡していることに人の注意を引きたいときに用いられる」と説明している。他にも相手の注意を引く、注意を促す表現である旨を載せ

ている辞書はあるが（『ウイズダム英和辞典』、『英語基本形容詞・副詞辞典』、『LEXIS 英和辞典』）、「人に物を差し出すとき、手渡すときに使う表現」とは別の表現として載せている。「人に物を差し出すとき、手渡すときに使う表現」と「ある物を手渡していることに人の注意を引きたいときに用いられる」という説明では、発話者の焦点が違う。前者は物を差し出す・手渡すことに焦点が置かれ、後者は物を渡すことに人の注意をひくことに焦点がある。複数の辞書にあたると、*Here you are* が何を焦点としているのかかえってわかりにくくなってしまう。

渡し方についての説明も辞書によって微妙に違う。渡すには投げる、蹴るなど、手渡す以外にもやり方がある。「手渡し」と明記している辞書もあれば（『オックスフォード実例現代英語用法辞典』、*A Dictionary of English and American Usage*、『英語表現辞典』）、ただ「渡す」、「物を差し出す」、「giving」と書いてあるものもある（『グランドコンサイス英和辞典』、『LEXIS 英和辞典』、『ウイズダム英和辞典』、*Longman Advanced American Dictionary*、*Macmillan English Dictionary*、『ロイヤル英文法』）。ボールを蹴って渡す場合や投げて渡す場合など、*Here you are* が使えるのかどうか確証が持てない。

その他の意味で載っているのは、「（探していた人が）あっ、ここにいた」である（『ウイズダム英和辞典』、*Macmillan English Dictionary*、『グランドコンサイス英和辞典』）。

Collins Cobuild English Dictionary は、“You say ‘Here we are’ or ‘Here you are’ when the statement that you are making about someone’s character or situation is unexpected.”と述べ、他の辞書とは違う説明を載せている。これは、“the statement that you are making about someone’s character or situation is unexpected”だからこそ、結果的に相手の注意を引く、注意を促すことになるとも思える。『ウイズダム英和辞典』、『英語基本形容詞・副詞辞典』、『LEXIS 英和辞典』に記述してある、相手の注意を引く・注意を促す表現と同じ状況を表しているのだろうか。

A Dictionary of English and American Usage と『英語基本形容詞・副詞辞典』は *Here it is* との対比において *Here you are* を説明し、その特徴として相手（人）に重点が置かれると説明しているが、相手（人）に重点を置くとは具体的にどういう状況なのか把握しにくい。

Here you are の使用状況として辞書の記述をまとめると以下の4つにまとめられそうだ。

- (1) 発話者が人に物を差し出すとき、手渡すとき
- (2) 発話者が相手の注意を引く、注意を促すとき
- (3) 発話者が探している人を見つけたとき
- (4) when the statement that you are making about someone’s character or situation is unexpected

しかし(2)などは「発話者が人に物を差し出すとき、手渡すとき」に「相手の注意を引く、注意を促す」のかは不明確なままである。同じ渡す状況でも焦点が変われば、(1)にもなる

し(2)にもなる。また、渡し方に条件はあるのか、などいくつか疑問が残る。

2.2. Here you go について

Here you go に関する記載は少なく、あっても極めて簡単な記述にとどまっている。記述のあった辞書は、ほとんどが相手に物を差し出すときの表現としていた(『ウイズダム英和辞典』、Longman Advanced American Dictionary、『英語基本形容詞・副詞辞典』、『グランドコンサイス英和辞典』)。『ウイズダム英和辞典』では Here you go を相手に物を差し出すときの表現として、Here you are とイコールで結んでいるが、果たして相手に物を差し出すときはいつでも Here you go と Here you are を全く同じ意味・状況で使うのだろうか。

『現代米語イデオム辞典』は Here you go を“Here is what you asked for (Informal)”と説明している。もしかしたら、インフォーマルであるのが Here you go の特徴なのだろうか。なお、渡し方については何の記述もない。

Here you go は多義性のある Here you are とは違い、相手に物を差し出すときに使用される表現だと多くの辞書で捉えていることがわかる。

2.3. Here it is / Here they are について

Here it is に関する記述は簡単なものが多い。一番多く挙げられている使用状況は、相手に物を差し出すときや“when you are giving something to someone, or showing something to them”であった(『ウイズダム英和辞典』、Longman Advanced American Dictionary、Macmillan English Dictionary、『ロイヤル英文法』、An A-Z of English Grammar and Usage、A Dictionary of English and American Usage、『グランドコンサイス英和辞典』、『LEXIS 英和辞典』)。但し、差し出すだけなのか、手渡すのか、何か他の方法で与えるのか、示すだけなのかについては辞書によって微妙に記述が異なる。『英語基本形容詞・副詞辞典』と『オックスフォード実例現代英語用法辞典(Second Edition)』では、「(相手が求めていた[探している]ものが)ほらここにあります」と記述しており、ただ示しているのか差し出す行為までも含めているのか不明確である。「人称代名詞を主語とし、単純な現在形の動詞を伴った 'Here ...be' という構文は、ある人や物の存在に注意を引くのによく用いられる」と説明した上で Here it is の例を挙げている文法書もある(『現代英語文法』)。Here it is には2つの意味があるとして、[探しているものが] ああ、ここにあった]の意味と[(手渡しながら) さあどうぞ]という意味を別に載せている辞書もある(『ウイズダム英和辞典』、Longman Advanced American Dictionary、『LEXIS 英和辞典』)。複数の文献を読めば読むほど、どういう行為までを Here it is が許容するかについては疑問が残る。

Here you are との関係についてもよくわからない。『ウイズダム英和辞典』では「相手にもの

を差し出すときの表現」として *Here you are* とイコールで結んである。『ロイヤル英文法』でも *Here you are, Here we are* とまとめて「探し物や望みのものを差し出すとき」に *Here it is* を使うと書いてある。『*A Dictionary of English and American Usage*』と『ロイヤル英文法』では *Here you are* と *Here it is* はほとんど同じ意味であるが、*Here it is* は渡す物に重きを置くと説明している。

Here they are に関しては記述が特に少なく、全く記述していない辞書もある。『*Longman Advanced American Dictionary*』では、*Here it is* を“said when you have found something you were looking for”と説明した上で、“Have you seen my glasses? Oh, *Here they are.*”の例が載っている。ここから見ると、*Here it is* と *Here they are* の違いは主語が単数であるか複数であるかだけのように取れる。『*Macmillan English Dictionary*』では *Here he is, Here we are, Here they are* を1つにまとめ、“spoken used for saying that someone or something has just arrived or is just arriving”と説明している。*Here they are* は“said when you have found something you were looking for”と、“spoken used for saying that someone or something has just arrived or is just arriving”の意味が記述されていると理解してよいだろう。

それぞれの表現が文献でどう扱われているかを見てきたが、ある表現がどのような状況で使用されるかについて辞書を見ても疑問が残ることがわかった。例えば物を渡すと、*Here you are, Here you go, Here it is, Here they are* はいずれも使用できるような記述にとれるが、はたして違いはないのだろうか。そこで本研究では、これらの4表現がどのような状況で使われるのかを状況把握がしやすい映画での使用例に照らし合わせ、それぞれの表現の特徴について調べてみたい。

3. 研究課題

何かを渡すときに用いられると思われる4表現、*Here you go, Here you are, Here it is, Here they are* がそれぞれどのような状況で使用されるかを分析し、使われ方に違いがあるのか、あるとしたらどのような違いなのかを考察する。

4. 映画データ

データとして、インターネットでスクリプトが入手可能な映画を使った。対象として調べた映画は206であった。その映画のスクリプトをTEXTANAにかけ、*Here you go, Here you are, Here it is, Here they are* がそれぞれ使われている場面を取り出した。スクリプトだけでは書きのきかないものや、実際に状況がないとよくわからないものもあるため、ビデオ、DVDなどで

できる限り使用状況を確認した。しかし、ビデオや DVD を全て入手するのは難しく、使用状況が確認できない表現もいくつかあった。そこで、実際に分析に使ったものはト書きやセリフなどで各表現の使用状況が明確に把握できるもの、ビデオ、DVD などで使用状況を確認できるものを扱った。

5. 分析と考察

映画データを見ながらそれぞれの表現で特徴的な点をまとめていった。考察上、ネイティブスピーカーの意見が必要と思われるところは、何人かのネイティブスピーカーに映画の状況をみてもらったり、ト書き付の台詞を読んでもらったりして、各表現を使用する適切さなどに関して彼らの意見や判断を分析に取り入れた。意見を求めたネイティブスピーカーはいずれも日本又はアメリカの大学で教えている教員である。

5.1. Here you are

Here you are の例は16場面あり、そのうち9場面の状況を映画で確認できた。大きく分けて2つの状況で使用されていた。1つは「相手に何かを渡すとき」で、もう1つは相手を見つけて「あなたはここにいたのか」と「相手 (you) の存在を強調するとき」である。

「相手に何かを渡すとき」の状況例は以下のようなものである。

CORRINA: I beg your pardon, madame, but I have a gift for you. Now, close your eyes. *Here you are*. I made this special for you, in honor of you going back to school tomorrow, so that you have a place to put all your papers and your poems and your drawings, and you can show them to your Dad. Here.

(*Corrina Corrina*)

これは、家政婦として働いている Corrina が働き先の少女にファイルのようなものをプレゼントする場面である。発話者が「I have a gift for you」と既に言っているため、相手の少女は贈物を受け取る準備（心構え）ができていいる。渡される物は形のあるものである。他の例を見よう。

ODA MAE: Just anywhere?

FERGUSON: Right here. Fine. The, uh, check. This, uh... *Here you are*. (*Ghost*)

これは、インチキ霊媒師の Oda Mae が幽霊になった Sam の依頼によって銀行へ行き、銀行で小切手を受け取る場面である。ここでも Oda Mae は小切手を受け取る準備はできている。Ferguson は Oda Mae に高額の small 切手をためらいながら手渡している。ここでも小切手という形のある物を渡している。

何かを与える状況で使用されている *Here you are* の例を見ると、与えられる側に受け取る準備があり、渡されるものが形のある物だということがわかる。さらに、*Here you are* が使用されるときの渡し方は手渡しが多いことがわかる。そこで、手で渡すという渡し方が *Here you are* の独自の使い方かどうかを調べてみた。手渡し以外の渡し方として、蹴って渡す、投げて渡す、スライドさせて渡す例を3つ作り、*Here you are* が使用できるかどうかネイティブスピーカーのインフォーマント2名に尋ねてみた。さらに *Here you go* などの他の表現も使用できるかを尋ねた。

蹴って渡す例

[Two boys practice passing the soccer ball. One miskicked the ball and the ball rolls over to Jim. Jim kicks the ball back to the boys.]

Jim: ()

投げて渡す例

[A baseball game is about to begin. The chief umpire throws a ball to the pitcher and says]

Umpire: ()

スライドさせて渡す例

[In a bar, one customer orders a glass of whisky. He gets it and slides it to a man sitting at the end of the counter.]

Customer: Hey, buddy. ()

2人のインフォーマントはいずれの例でも *Here you go* と *Here you are* のどちらも natural と判断した。但し、そのうちの1人は、蹴って渡す例とスライドさせて渡す例でどちらもよいとしながらも、*Here you go* を“first choice”と判断した。多少の判断の違いはあるが、*Here you are* が手渡しに限定されると断定するのは難しいようだ。

もう1つの *Here you are* の使用状況を見てみよう。その使用状況は「あなたはここにいたのか」という相手の存在を強調するときである。以下の2例を見てみよう。

(ALADDIN and JASMINE have been getting closer and closer, until ALADDIN leans in to kiss her. He is interrupted, however, by the GUARDS, who have found them.)

GUARD: *Here you are!*

ALADDIN and JASMINE: They've found me! (To each other) They're after you?

(*Alladin*)

(Esmeralda finally enters, and the 'goyles go stone.)

Esmeralda: *Here you are.* I was afraid I'd lost you.

Quasimodo: Yes. Um, well, I uh, I have chores to do. It was, uh, nice...seeing...

you...again. Ohh... (*Hunchback of Notre Dame*)

これらの例は *You are here* が倒置となって、「あなたはここにいたのか、という相手の存在を強調している」例である。インフォーマントにこれらの状況を見てもらったが、いずれも *Here you go*, *Here it is*, *Here they are* はいずれも使用できないと判断された。

結論として、*Here you are* は本来的に2つの使用状況がある。1つは「相手に何かを渡すとき」で、渡し方は問題とならず、相手には受け取る準備がある。渡すものは形のある物である。もう1つは相手を見つけて「あなたはここにいたのか」と「相手 (you) の存在を強調するとき」である。

5.2. *Here you go*

Here you go のデータとして分析したのは全部で41場面で、そのうちの18場面は映画で状況を確認できた。辞書では“said when you are giving something to someone”と書いてある。確かに下の例を見ると、レストランでウェイトレスがコーヒーを持ってきて渡すときに使われている。

(A waitress brings them coffee.)

Waitress: *Here you go.*

Gale-: Thank you. Dewey, you're not just here because of that second rate K-Mart, straight-to-video version of me, are you? (*Scream 3*)

他の例を見ると、与えるものは fruit, soap, stones, plate, pizza, coins, credit card, medal などといった物理的な物が含まれる。しかし、与える物が物質ではなく、新たな状況や、行為と捉

えられる例もみられた。次の例を見てみよう。

(ON THE LITTLE ISLAND -- SUPERMAN lands there and lifts the bird in his hand.)

SUPERMAN: (gently) *Here you go*, little fella.

He softly blows the oil off the bird's feathers. (*Superman 3*)

これは *Here you go* と言った後に Superman が鳥の羽についた油を吹き飛ばすシーンである。ここでは Superman は鳥に何か物質を渡しているわけではない。しかし、「渡す」を広義にとって何かの行為を与えると考えることは可能である。上記の例のように与えるものが「羽についた油を吹き飛ばす」という行為の場合、*Here you are*, *Here it is*, *Here they are* も使用できるかインフォーマント 3 名に聞いたところ、皆 *Here you are* は odd, *Here it is*, *Here they are* はいずれも wrong と答えた。さらに、*Here you go* と言ってから「油を吹き飛ばすという行為」をするタイミングが大切だという指摘もあった。なぜこのタイミングが大切かといえば、*Here you go* は、「何かを与える目的で、発話者が相手の注意を喚起する」、または「何かを与える目的で、発話者が相手の次の行為を促す」表現だからではないだろうか。

他にも発話者が相手の注意を喚起する意図が明確な使用状況がある。

(SCENE 53 - MS ON NICK WITHOUT A BOX AND CRACKING HIS KNUCKLES.)

(SCENE 54 - BACK ON HER.)

DARCY: *Here you go*, Nick. (*What Women Want*)

これは、Darcy が女性をターゲットにした宣伝を作るための会議をしている場面である。Nick は会議に参加しているが、自分の役職を Darcy に奪われ面白くない。Darcy は女性を理解した上で広告を考えてもらうために、女性が使う様々な物が入った箱を一つ一つ皆に渡すが、Nick は受け取らず、指をならしている。それを見た Darcy は *Here you go* と言ってから、箱を机の上で勢いよくスライドさせて Nick に渡す。相手 (Nick) の注意を喚起し、次の行為を促す (例えば、スライドされた箱をしっかりと受け取る、など) という強い意図があるからこそ、*Here you go* がこの場面では適切なのではないだろうか。

Here you go しか使えない使用状況として、インフォーマントの 1 人は次のような状況を挙げてくれた。

映画館に行ってチケットを買った客が、チケットを受け取るのを忘れてその場を離れようとする。その時にチケットを客に振って見せながら、“*Here you go, sir.*”と言う。

この場合、*Here you go* だけが natural だというのである。相手は *Here you go* と言われるまで、チケットのことは忘れていて、受け取る準備がない。そこで、発話者には相手の注意を喚起する必要性が生まれる。故に *Here you go* をここで使用しているのだろう。もう1つ例をみてみよう。

Woman: Save the clock tower, save the clock tower. Mayor Wilson is sponsoring an initiative to replace that clock. Thirty years ago, lightning struck that clock tower and the clock hasn't run since. We at the Hill Valley Preservation Society think it should be preserved exactly the way it is as part of our history and heritage.

Marty: *Here you go, lady.* There's a quarter.

Woman: Thank you, don't forget to take a flyer. (*Back to the Future*)

ここでは、相手が目の前に寄付金を入れる缶を差し出している。ここでは前例と違い、相手は寄付金を受け取る準備は十分に整っている。発話者は「わかった、わかった」というような様子で硬貨を缶の中に入れてから、手のひらで缶の上を軽く叩いている場面である。ここでは *Here you are* も使用可能な状況と判断された例であるが、*Here you go* を使うことで、焦点が「単に渡す」ことから「硬貨をもうあげたから、もういいだろう、行ってくれ」というニュアンスが生まれると考えられる。

結論として、「何かを与えるのを目的として、発話者の側に相手の注意を喚起し、相手の次の行為を促す時に使用する表現」と捉えると、*Here you go* のさまざまな使われ方が説明できると思われる。そして、発話者の側に相手の注意を喚起し、相手の次の行為を促す必要が極めて高いときには、*Here you go* の独自性が際立ち、*Here you go* のみ使用が許されると考えられる。

5.3. *Here it is* / *Here they are*

Here it is の例は18場面あり、そのうち8場面の状況が映画で確認できた。*Here they are* の例は極端に少なく、2例であり、そのうち映画で確認できたものは1例だった。*Here it is* と *Here they are* の違いは *it* で表す単数と *they* で表す複数の違いである。では、実際の例をみてみよう。

MOLLY: It's flying!

MANNY: There it is!

MOLLY: It's flying!

MANNY: Oh, no! *Here it is. Here it is.* Under the tree.

MOLLY: I'll go get it!

MANNY: In the sandbox. In the sandbox ... (*Corrina, Corrina*)

父親の Manny、娘の Molly、家政婦の Corrina が 3 人仲良く凧揚げをしているが、凧が風に飛ばされて飛んでいってしまう。その凧を追いかけて、3人が庭の砂場にやってくる。そこで凧を見つけて、父親の Manny が *Here it is.* と言っている。発話者自身が探しているものを見つけたときに *Here it is* が使われている状況である。Where is the kite? と発話していないまでも、発話者が the kite を捜し求めていたことは状況から見て明確であり、見つけたからこそその心理的な先行詞である the kite を受けて *Here it is* と言い、「it (凧) がここにある」ことを強調していると考えられる。

次の例では、相手が探している、または求めているものを発話者が示している。

SNAKE: Where's the tape, Brain?

CABBIE: What tape?

SNAKE: Where is it?

BRAIN: Tape...

PRESIDENT: The tape from the briefcase!

CABBIE: Oh, that tape!

He pulls it out of his pocket.

CABBIE: *Here it is!*

Cabbie hands it to Snake. Brain laughs, trying to cover his ass. (*Escape from NY*)

“Cabbie hands it to Snake.” とト書きにはあるが、実際映像で見ると、Cabbie はテープを出して見せているだけで、Snake がその出されたテープを乱暴に奪い取っていた。この例では it が示す先行詞、the tape が導入されている。ここで面白いのは、渡す目的で *Here it is* が使われていないという点である。繰り返すが、Cabbie は、「そのテープならここにあるよ」とテープを見せているだけなのである。*Here it is, Here they are* の使用状況として、「渡す」という行為は本質的なものではないことを示唆していると考えられる。

次の例は夫婦の会話である。母親が右手に赤ん坊を、左手にミルクを持っている。ミルクを

夫に差し出しながら「ミルクはここよ」と強調することで、結果的には「さあ、赤ん坊にミルクをやって」という発話者の相手に対する強い命令になっている。

MOTHER: Lord. Child, we gonna get you some milk for te [sic] baby. Yes, indeed,
Here it is. Go to your daddy now. (*The Color Purple*)

以上の3例はいずれも *it* または *they* で示された物がここにあるという存在を強調している具体的な状況であると解釈できる。この場でも、*it* の受ける *some milk* が先行詞として導入されている。

それでは次に、何かを渡すときに使用された唯一の *Here they are* の例を見てみよう。

JACK: Hi. Maggie insisted that we bring Sammy some new fish.

MELANIE: Thank you. Um, do you guys-- Do you wanna come in for a minute?

JACK: No, we don't want to-- We don't wanna intrude.

MELANIE: Oh. Okay. Well...

JACK: Yes.

MELANIE: Thanks.

JACK: *Here they are.* Okay.

MELANIE: Okay. Thank you. (*One Fine Day*)

この場面に至るまでに、Jack と彼の幼い娘が Melanie と彼女の幼い息子の金魚をなくしてしまうという状況があったことを理解しておく、*Here they are* の使い方が分かりやすくなる。Jack は家に戻るが、娘が「Melanie が Jack のことを好きだと思う」という。Jack は今まさに寝ようとしていた娘をベッドから起こし、金魚を買いに行こうと言い出し、結局金魚を買って Melanie のもとへ行く。そしてこの会話は、金魚が数匹入った袋を Jack が Melanie に手渡しながら言っている場面で交わされたものである。ここでは *Here you are* も *Here you go* も可能であるが、*Here they are* を使うことによって Jack の微妙な気持ちが表れているような気がする。つまり、「君に会いたいのが本音であるが、照れくさいので、なくした金魚を買って持ってきたことにする。さあ、ここに金魚があるよ。」と金魚の存在を強調したいのではないか。だからこそ、ここで *Here they are* の使用が選択され、またその表現が生きてくるのではないだろうか。ここでも *some fish* と *they* が受ける先行詞がある。

分析のために集めた *Here it is / Here they are* を分析すると、以下の3つの使用状況にまとめられそうだ。いずれの状況でも *it*, *they* が示す先行詞が言葉として明記されるか、状況的に

導入されているかが前提条件となる。

- (1) 発話者自身が *it* または *they* で示している物を探している、または求めているときに、それを見つけた状況。
- (2) 相手が *it* または *they* で示している物を探している、または求めているときに、発話者が相手にそれを見せるとき / 渡す状況。
- (3) 相手は *it* または *they* で示している物を探していないし、または求めてもいないが、発話者が相手にそれを見せるか、渡したい状況。

3つの状況とも、*It is here / They are here* の倒置で、「発話者が *it* または *they* で表される対象がここに存在することを強調する必要がある」状況とまとめられる。その状況は何かを見せるだけのこともあれば、見つけたときもあるだろうし、相手に渡しながら言う事もあるだろう。しかし、見せる、見つける、渡すのが第一の目的で *Here it is* を使っているのではないと考えられる。

まとめると、*Here it is / Here they are* は本来、*it* または *they* という代名詞が先行するものが既に導入されており、かつ「発話者が *it* または *they* で表される対象がここに存在することを強調する必要がある状況に使用する表現」と理解するとわかりやすい。そして、その先行詞の導入のされ方は、言葉として導入するものだけとは限らず、状況的な導入もある。

5.4. Formality について

ここでは *Here you go* と *Here you are* の違いが formality によるというインフォーマントの意見を考察する。2人のインフォーマントは2表現間の違いについて以下のように述べている。

Here you go. This is used when physically giving or handing something to someone. It can be used in situations when you do something for someone; show, finish or pass something to someone. It is informal in nature. Plural/singular is not relevant here.

Here you are. This is used in almost all cases identical to *Here you go*, but it is more standard and less colloquial in nature. It can be used interchangeably with *Here you go*, but *Here you go* cannot necessarily be used interchangeably with *Here you are*.

違いとして記述されているのは *Here you are* は *Here you go* より formal であるという formality の違いである。そこで、formality の違いが *Here you go* と *Here you are* の使用選択を変えるか

どうか調べてみた。以下の例は映画、*Happiness* から採ったもので、括弧内には *Here you are* が使用されていた。formality の違いがさらに明確に出るように“in an expensive restaurant”と状況を付け加え、括弧内に 4 表現 (*Here you go*, *Here you are*, *Here it is*, *Here they are*) のどれが入るか 2 人のインフォーマントに答えてもらった。

[In an expensive restaurant, the WAITRESS comes by with the dessert.]

Waitress: ()

Kristina: Thank you.

1 人は *Here you go*、*Here you are* のどちらも natural としながらも、*Here you go* は “more colloquial and not appropriate for expensive restaurant” として、*Here you are* を first choice と判断した。もう 1 人は、*Here you go* を odd, *Here you are* を natural と判断した。*Here you go* の適切さについての判断は、人によって多少変わってきてしまう。

以下の例を見てみよう。

[INT. AIRLINER CABIN. IN FLIGHT. In the first class seat, the stewardess hands a glass of water to Mr. Babbage.]

STEWARDESS: (), Mr. Babbage. Flight time to Tokyo should be about 14 hours today. Can I get you anything else?

[“Babbage— is The Plague in disguise; he now appears about 60 years old.]

(Hackers, Modified)

2 人のインフォーマントは括弧に *Here it is* と *Here they are* は入らないが、*Here you go* と *Here you are* はどちらも natural としている。そのうちの 1 人は *Here you go* について “slightly less acceptable, but it would depend on the background of the stewardess and the training she had received from the airline” とコメントしている。*Here you go* と *Here you are* の適切さについての判断はインフォーマントによって微妙に違うが、それが formality の違いによると明確に言えるほどの基準でもないようだ。これは推測の域を出ないが、ネイティブスピーカーが感じる informality はもしかしたら go という動詞の特徴なのかもしれない。

まとめ

以上考察してきた *Here you go*, *Here you are*, *Here it is*, *Here they are* の特徴をまとめると以下の表ようになる。それぞれの表現が本来焦点にしていると思われるところには下線部を引いた。

Here you are, Here you go, Here it is, Here they are の特徴

| <i>Here you are</i> | <i>Here you go</i> | <i>Here it is</i> (単数) <i>Here they are</i> (複数) |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 主語の <i>you</i> がここにいることを強調する表現 相手側に受け取る準備がある前提で、<u>何か物質的な物を与える</u> 状況で使用する表現 | <ul style="list-style-type: none"> 相手側の受け取り準備に関する前提はなく(受け取る準備があってもなくてもよい)、相手に何かを与える目的(物質的なものだけでなく、行為なども含む)で、<u>相手の注意を喚起し、次の行為を促す</u> 状況で使用する表現 | <ul style="list-style-type: none"> <i>it</i> または <i>they</i> が受ける先行詞が既に導入(言葉として導入されるだけでなく、状況的な導入もある)されている前提で、発話者が <u><i>it</i> または <i>they</i> で表される対象がここに存在することを強調する</u> 状況で使用する表現 |

映画データをネイティブスピーカーに判断してもらい、その結果を分析してみると、*Here you go* では、相手に受け取る準備があってもなくても使用される。しかし、相手に受け取る準備が無い使用状況では、相手の注意を喚起する強い動機があるためか、*Here you go* だけが適切な表現であった。相手に受け取る準備がある状況ではニュアンスは違ってくるだろうが、*Here you are* も選択される状況になってくる。

意外にも渡すのが本来の使用状況であるのは *Here you are* だけだった。但しこの場合、*Here you go* とは違って、相手に受け取る準備がある状況のみでの使用になる。*Here you are* しが使われないのは「*you* がここに存在することを強調する場合」である。

Here it is, Here they are は先行詞が単数か複数かという違いはあるものの、基本的に同じように使用される。(もちろん、複数の人・ものが主語になる場合には、*Here they are* のみが可能になるが。)両表現とも先行詞が導入されていなければならず、その先行詞が指す物がここに存在することを強調する場合に使用される。インフォーマントが *Here it is* の微妙なニュアンスを示す面白い例を挙げてくれた。レストランの場面で通常通りウェイトレス(またはウェイター)が料理を持ってきたときには *Here it is/Here they are* は一般的には使わないという。*Here it is/Here they are* は本来「物を渡すとき」の表現ではないから、レストランの通常の場面で *Here it is/Here they are* は一般的には使われないのだろう。但し、状況が変わると *Here it is* の使用が許される。自分が注文した物がなかなか来ないので、ウェイトレスにどうなっているのか聞く。その場合ウェイトレスが様子を見に厨房に行き、注文の料理をもってきて *Here it is* というのは *natural* な使用になるという。これを日本語で「さあどうぞ」とか「おまちどうさま」という訳にしまうと、*Here it is* のニュアンスが消えてしまう。本来は渡すのが目的ではなく、「あなたが注文した料理はここにありますよ」と強調している状況だから、*Here*

it is が使用されるのではないだろうか。

考察していく上で、*Here you are*, *Here you go*, *Here it is* (*Here they are*) のいずれを使用してもよい状況が少なからずあった。具体的には、相手が探している物を見つけて相手に渡すような状況である。このように複数の表現が許される状況では、ネイティブスピーカーは自分が心理的に焦点を当てたいポイントが生かせる表現を瞬時に選択して発話しているのかもしれない。

7. 最後に

本研究は映画データをもとに、*Here you go*, *Here you are*, *Here it is*, *Here they are* の違いについて考察を試みたが、気づいた2点を最後にまとめて終りたい。

1. 抽象的な記述と学習者に有益な記述の違いについての問題

本研究では *Here you go*, *Here you are*, *Here it is*, *Here they are* の特徴をまとめた。例えば、*Here you are* の特徴の1つは「相手側に受け取る準備がある前提で、何か物質的なものを与える状況で使用する表現」である。しかし、この表現は抽象的で、そのまま学習者に教えてもわかりにくいと思う。例などの提示方法も含め、学習者に分かりやすい記述とは何かを今後考えていく必要があるだろう。

2. 類似表現にはニュアンスの違いが日本語訳でかえってわかりにくくなってしまっているものがある。それらの表現の違いを学ぶ教材として、動画データが有効である。

本研究で扱った *Here you go*, *Here you are*, *Here it is*, *Here they are* などは、「はい、どうぞ」と同じ日本語訳になってしまうことが多く、そのニュアンスの違いが言葉の上で明確になりにくい。そこで、それぞれの表現の使用状況を映画より抜粋して、動画データとして DVD に録画してみたところ、各表現を理解する有効な教材となることを実感した。ト書きつきのセリフよりも明らかに臨場感があって記憶に残る。ネイティブスピーカーの使い方を学ぶ教材としての動画データは有効性が高いと思う。

今回は限られた数のデータから4表現の使い方についての分析を試みた。さらにいろいろなデータが説明しうるか検証を続けていかなければならない。

References

- Collins Cobuild English Dictionary*. London: HarperCollins, 1995.
Leech, Geoffrey. An A-Z of English Grammar and Usage. Tokyo: Macmillan Language House, 1999.
Longman Advanced American Dictionary. Prentice Hall, 2000.
Macmillan English Dictionary. Trans-Atlantic, 2002.

- Oxford Advanced Learners Dictionary*. Oxford: Oxford University Press, 1989.
- Quirk, R., S. Greenbaum. 『現代英文法』紀伊國屋書店, 1973.
- Spears, R.A. *NTC's American Idioms Dictionary*. 『現代米語イディオム辞典』南雲堂フェニックス, 2001.
- マイケル・スワン編『オックスフォード実例現代英語用法辞典』桐原書店, 1990.
- マイケル・スワン編『オックスフォード実例現代英語用法辞典』Second Edition 研究社出版, 2000.
- 荒木一雄・大沼雅彦・豊田昌倫編『英語表現辞典』第二版 研究社出版, 1985.
- 井上永幸他編『ウイズダム英和辞典』三省堂, 2003.
- 井上義昌編 *A Dictionary of English and American Usage* 開拓社, 1969.
- 大塚高信編『英語表現辞典』研究社出版, 1969.
- 木塚晴夫・James Vardarman. 『日本人学習者のための米語正誤チェック辞典』Macmillan Language House, 1997.
- 小西友七編『英語基本形容詞・副詞辞典』研究社出版, 1989.
- 三省堂編『グランドコンサイス英和辞典』三省堂, 2001.
- 花本金吾・野村恵造・林龍次郎編『旺文社 LEXIS 英和辞典』旺文社, 2003.
- 渡辺登士『統・英語語法大事典』大修館, 1976.
- 綿貫陽・須貝猛敏・宮川幸久・高松尚弘・マークビーターセン『ロイヤル英文法』旺文社, 2000.

(ひき・くるみ 国際言語学部助教授)